

6:11 さて主の使いが来て、アビエゼル人ヨアシュに属するオフラにある榿の木の下にすわった。このとき、ヨアシュの子ギデオンはミデヤン人からのがれて、酒ぶねの中で小麦を打っていた。

6:12 主の使いが彼に現われて言った。「勇士よ。主があなたといっしょにおられる。」

6:13 ギデオンはその御使いに言った。「ああ、主よ。もし主が私たちといっしょにおられるなら、なぜこれらのことがみな、私たちに起こったのでしょうか。私たちの先祖たちが、『主は私たちがエジプトから上らせただけではないか。』と言って、私たちに話したあの驚くべきみわざはみな、どこにありますか。今、主は私たちを捨てて、ミデヤン人の手に渡されました。」

6:14 すると、主は彼に向かって仰せられた。「あなたのその力で行き、イスラエルをミデヤン人の手から救え。わたしがあなたを遣わすのではないか。」

6:15 ギデオンは言った。「ああ、主よ。私にどのようにしてイスラエルを救うことができますでしょう。ご存じのように、私の分団はマナセのうちで最も弱く、私は父の家で一番若いのです。」

6:16 主はギデオンに仰せられた。「わたしはあなたといっしょにいる。だからあなたはひとりを打ち殺すようにミデヤン人を打ち殺そう。」

6:17 すると、ギデオンは言った。「お願いです。私と話しておられるのがあなたであるというしるしを、私に見せてください。」

6:18 どうか、私が贈り物を持って来て、あ

なたのところに戻り、御前にそれを供えるまで、ここを離れないでください。」それで、主は、「あなたが戻って来るまで待とう。」と仰せられた。

6:19 ギデオンはうちにはいり、一匹のやぎの子を料理し、一エバの粉で種を入れないパンを作り、その肉をかごに入れ、また吸い物をなべに入れ、榿の木の下にいる方のところに持って来て、供えた。

6:20 すると、神の使いはギデオンに言った。「肉と種を入れないパンを取って、この岩の上に置き、その吸い物を注げ。」それで彼はそれのようにした。

6:21 すると主の使いは、その手にしていた杖の先を伸ばして、肉と種を入れないパンに触れた。すると、たちまち火が岩から燃え上がって、肉と種を入れないパンを焼き尽くしてしまった。主の使いは去って見えなくなった。

6:22 これで、この方が主の使いであったことがわかった。それで、ギデオンは言った。「ああ、神、主よ。私は面と向かって主の使いを見てしまいました。」

6:23 すると、主はギデオンに仰せられた。「安心しなさい。恐れるな。あなたは死なない。」

6:24 そこで、ギデオンはそこに主のために祭壇を築いて、これをアドナイ・シャロムと名づけた。これは今日まで、アビエゼル人のオフラに残っている。

「酒ぶねの中で小麦を打っていた」ということは、敵を恐れてのことで、戦う意思もなく問題から逃れていたようすがわかります。それに対して主の使いは「勇士よ」と言っています。それは主

の意思です。私たちの現実では、時には主は御使いのようにクリスチャンのこぼれを用いることもあります。「自分はだめだから」と逃れないで、「勇士」であるということも自覚しましょう。

その勇士の根拠は「主があなたといっしょにおられる」ということです。主は「見よ。世の終わりまでもあなたがたといっしょにいる」と約束しておられます。それを忘れないようにしましょう。

ギデオンは主であることを試したのですが、それは使命を確認するためのものです。自分の願望のためではありません。現在は火の“実験”はいりません。聖書があるからです。ことばや思い、または幻が与えられたとき、聖書から、語っておられる方が主であることを確認しなくてはなりません。そして聖書に従うのです。

① 神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

② どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③ 生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④ この世にあって何を実践しますか？

